

節も季節であり、高播きしたところ、100m以上の大高播きととなった。目的地に着く前からきついアルバイトを強いられたものである。夏なら、おもしろいゴルジュのようである。

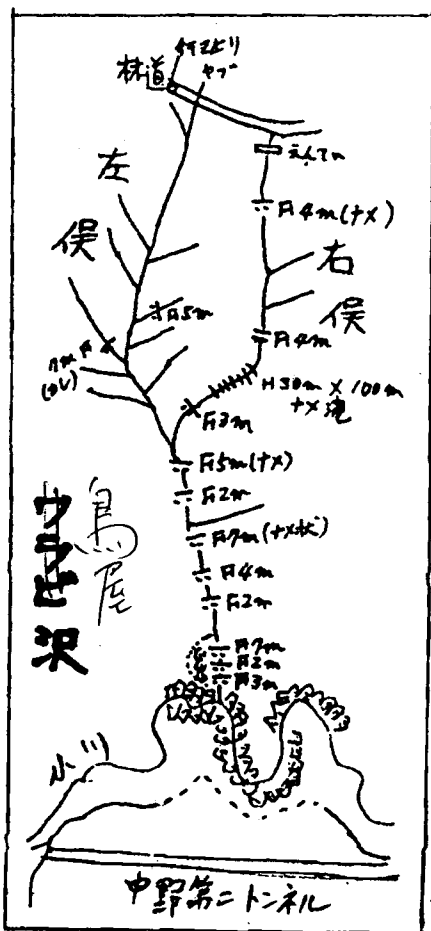
ようやく中俣出合である。苦勞してきた割には、出合はたいしたこともなく、ガッカリ。気をとりもどして先に進む。

最初は平坦地で、沢が右へ左へ大きく蛇行しており、入りこむ支沢も多い。沢幅が狭くなり、勾配がきつくなってきたあたりよりナメ床の滝がかかってくる。

源頭部へくると、勾配はゆるくなってくる。沢の中は泥で、湿地のようである。歩くと足首までズボリ、ズボリ。文殊山のちょっと手前で遊行終了とし、昼食を食べて帰路につく。

(記)

[タイム] 林道ゲート(9:00)→横川出合(9:30)→中俣右沢出合(10:50)→終了(11:40)



ワラビ沢左俣

1985年9月14日

L

13時福島発。中野第2トンネル入口手前を右に折れ、踏跡をたどる。しかしこの踏跡はすぐに消え、短いがいやらしい草付のトラバースの後、反対側からの道と合う。そこから沢に下降し、ワラビ沢出合へ。

出合には3m、2m、7mと続く滝がある。最初の2段は登れるが、7mの滝が登れず、右岸を高播いていたら踏跡らしきものがあった。

再び沢に降りると、この先は倒木で沢がほとんど埋まっている。滝も倒木の間に出てくるもので、すべて直登できる。

右俣との出合を過ぎて沢が大きく右に曲がることから、倒木はなくなるものの、平凡な河原歩きとなる。

ヤブがかかってきたと思ったら、地図には

ない林道が目の前に現われる。横川林道13号支線で、出た所は工事の最終地点。
来年はもっと奥まで林道が入っていくだろう。

林道を越えて先に進むと、沢はヤブの中となり、遡行終了。(記・)

[タイム] 出合(14:15)→二俣(14:50)→林道(15:15)

鳥居沢
クラビ沢右俣(下降)

1985年9月14日

L

林道を歩いて右俣下降点をめざす。途中に林道の工事小屋があり、人夫の人達が休憩していた。小屋の手前から沢に降りると、堰堤があり、その先しばらくして水が出てくる。

4mのナメ滝を過ぎ、沢が右に大きく曲がる地点より、高さ30m、長さ100m程のナメが続くが、ところどころ倒木で埋まっており、容易に下ることができる。

すぐ二俣となる。16:15下降終了。

(記・)

[タイム] 林道(15:15)→二俣(15:50)→下降終了(16:15)